

生涯教育研修活動報告書

病理検査研究班

- 1 実施日時：2022年9月16日（金）18時00分～19時00分
- 2 会場：Web開催 点数：専門—20点
- 3 主題：あなたの施設の染色は満足？ ～HE染色標本作製について～
- 4 講師：森田 繁（さいたま市立病院）
末吉 徳芳（サクラファインテックジャパン株式会社 営業本部 学術顧問）
- 5 協賛：無し
- 6 参加人数：会員148名 賛助会員0名 非会員1名
- 7 出席した研究班班員：関口久男、森田繁、高橋俊介、小島朋子、細沼佑介、今村尚貴、
遠山人成、松本祐弥、三鍋慎也

8 研修内容の概要・感想など

今回は最も身近に行われている HE 染色について、他施設でのプロトコルや染色性の見極め等、普段なかなか聞くことができない内容を「あなたの施設の染色は満足？～HE 染色標本作製について～」を主題として、2名の講師に講演をお願いした。

森田氏は埼玉県内の15施設を対象に実施した HE 染色手順に関するアンケート調査の集計結果を報告した。これによると、染色装置を用いず手染めのみで行っている施設は4施設で、機械化が進んでいることが窺われた。ヘマトキシリン試薬については、7割以上の施設が市販の染色液を用いており、エオジン試薬については1施設のみが自家調製試薬ということで、多くの施設が精度管理や業務効率化の観点から、調整済市販品を用いていることがわかった。また、染色手順については、染色・脱色・色出し等の時間が施設間でばらつきがみられることが浮き彫りとなった。今回の調査では、実際の染色の色味は不明であり、手順のばらつきが染色性のばらつきに繋がるか否かはわからないため、染色性の比較について今後研究班の課題として検討していきたい。

末吉氏は「識別しやすい HE 染色標本作製」と題して色素や染色性に関して化学的な側面からの説明と、染色性判断のコツについて講演した。まず、染色に関わる要素として「化学的親和性」「濃度」「透過性（分子量）」が染色の三要素と言われており、これらが各々作用して最終的に一つの染色ができあがることを学んだ。また、エオジンは分子中の Br（臭素）の数の異なるものを混合することにより、染色性に濃淡が生じ、より識別が良好になるとのことであった。染色性を判断する場合には、まず「染色後標本の大きさとブロックの組織の大きさが同じであること」が

第一条件で、「血管と内容、その付属部位」で判断することが望ましいとのことであった。HE 染色は青紫色と橙色の単純な染色で終わるのではなく、色調や彩度を微妙に調整し、「組織の多様な変化を識別可能な染色性を追求する」ことが大切であるとのことであった。

今後、日常業務での HE 染色チェックにおいて、今回の研修会内容を念頭において鏡検していただければ幸いである。

提出日 2022 年 9 月 20 日

文責：三鍋慎也